

「戻ったぞ」

「うんうん、ちゃんとお留守番できてエライな♪ 今日は何か付いてるかな？ ガウの顔に何か付いてるかな？」

「…すんすん…ああ♪ オマエ、もう発情してる♪ わうわう♡ 素直になつたな♡」

「ガウの顔見て、ムラムラした？ ふたなりチンポ、入れられたくなつた？♡」

「安心しろ。オマエがちゃんとしたツガイになれるまで、何回だつて祝福してやる♡」

「ハッ、ハッ、ハッ、ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡」

「オマエの匂い嗅いでたら、ガマンできなくなってきたぞ♡ 獲物はまたあとで食べるとして…ガウは今からオマエを、食べちゃう♡」とにするぞ♡」

「わうん！♡ 美味しそうな匂い、いっぱい撒き散らして…♡ そんなにガウに食べられたかつたんだな♡ ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡」

「交尾する前に、体を綺麗にしてやる♡ オマエはガウのモノだつて、マーキングしながら、全部舐めてやるぞ♡ ちゆるっ、ちゆるりゅぶっ…ちゅっ、ちゅちゅちゅ…ちゅぶちゅっ、ちゅぶちゅりゅっ、ぬちゅぶっ、んっ…じゅりゅぬちゅぶちゅっ、にゅりゅりゅっ、んあ…ハッ、ハッ、ハッ、ハッ♡」

「オマエのチンポ、ピンピンに勃つてて、発情してるな♡ ちゅっ、ちゅぶっ、ちゆるちゆるちゅるっ。んっ、はあ、はあ、はあ…わうん♡ ここに来たとき、マーキングしてただけで、せーし出してたの覚えてるぞ♡」

「ちゅっ、ちゅぶちゅっ、ぶちゅるっ、ぬちゅむっ、ちゆるちゅりっ、んっ、はあはあ、ちゅっ、ちゅっ。わうっ、オマエ、最初から敏感だったから、初めての祝福でもせーし出してた♡」

「今では自分から、ケツ振りながら、ケツまんこにふたなりチンポ突っ込んでつて、誘惑してくる♡ 交尾スキ♡」

「ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡」

「ガウも、オマエと交尾するのダイスキだぞ♡ ちゅっ、ちゆるちゅるっ、ちゅぶっ、ちゅるるっ、んっ♡ オマエは全部、ガウのモノだからな♡ たくさん祝福して、ガウだけの孕みヨメにしてやる♡」

「ちゅっ、ちゅっくっ、ちゅむちゅっ、ちゆるっ、ちゅりゅりゅっ、んっ、じゅりゅっ、じゅぶりゅっ、じゅるるっ、じゅっくっ、んっ、むっ、むちゅぬりゅっ、ぬちゅっ、ぬちゅぶちゅっ。あ…ハッ、ハッ、ハッ、ハッ♡」

「全身、舐められるのも、もう抵抗してないな♡ ハッ、ハッ♡」

「ただ感じて、発情して♡ 全身ビクビク震わせてるだけ、気持ちいい、止まらない？♡」

「それに、勃つてるチンポに近づいてくるたび、ビクビクって体、震えるの、分かってるぞ♡」  
「ちゅっ、ちゅっびっ、ちゅくっ、ぬちゅむっ、んっ、ハッ、ハッ、ハッ♡ オマエのチンポ、そんなにガウに、食べられたいのか？♡」

「わっわっ、あとで、ちゃんと食ってやるから、今はガマンしろ♡ ハッ、ハッ、ハッ。ちゅるっ、ちゅりゅりゅっ、ちゅっくっ、んっ、ちゅぶちゅりゅっ、ぬっじゅっ、じゅりゅりゅっ。」

「ぶあ…ハア、ハア、オマエの体、ホントにどこでも美味しそう匂いしてる♡ ちゅっくっ、ちゅるぶちゅっ、ぬちゅむちゅぶっ、ぬちゅるっ、ぬちゅっ、ぬりゅぬりゅっ。んっ、ハア、ハア、ハッ、ハッ、ハッ」

「チンポだけじゃなくて、乳首も、首筋も、どこ舐めてもオマエは発情してるんだな♡ 耳も弱いので、知ってるぞ？♡ ぬちゅっ、ぬりゅぬちゅっ、んちゅぶりゅっ、ぬじゅぶっ、じゅるじゅる。」

「ちゅっぶ、ちゅるちゅるっ、ちゅくっ、んウ…ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡ このままケツまんに、ガウのチンポ入れる♡ 交尾、するぞ♡ コドモ、作る♡」

「ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡」

「オマエがガウと、ツガイである証拠、いっぱいしてやる、からな♡ んっ、ぐウ♡ んんウ♡ あっ、あウ♡ わうん！♡ はあ、はあ、はあ、んウ♡ ケツまんに♡ すっく、気持ちいい♡ んア♡ はあ、はあ、ガウのふたなりチンポ♡ 簡単に飲み込まれてったぞ♡」

「んっ、わうん♡ わオ♡ おおん！♡ おっ、おっ、おっ♡ おおん！♡」

「あっ♡ あウ♡ スポズボ♡ 気持ちいい♡ んっぐウ♡ ケツまんに、搾り取られるっ♡ んんウ！♡ ふたなりチンポ、シゴくの、うますぎっ♡ あうん！♡ はあはあ、はあはあ、んんウ！♡」

「ガウも、もつと攻める♡ 耳、いっぱい。プロ、するウ♡ ちゅっ、ちゅぶちゅっ、んっ、んウ♡ ちゅくっ、ぬちゅるっ、ぬちゅっ、んオ♡ んぐウ♡ ちゅっ…ちゅるっ、ちゅぶっ、ちゅくんっ」

「はあはあ、ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡ ハッ…♡ 耳舐め、気持ちいい♡ ガウがプロプロすると、ケツまんに、すっく締まる♡ あウ♡ 舐めながら…ちゅるっ、ちゅっ、ちゅぶっ、んっ、うウ♡ チンポ♡ スポズボ、するっ、んっぐウっ♡」

「いつもより、あうん♡ チンポ♡ 搾り取られるウ♡ んっ、あうん！♡ ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡ 気持ちいい♡ あっ、あっ、あっ♡ あオ！♡ おおん！♡」

「気持ちいい♡ 気持ちいいがっ、止まんないぞ♡ うっぐウ♡ あっ♡ あオ♡ おっ、おおん！♡ もつと、突くっ♡ うっぐ♡ ケツまんに♡ すっく、すっく、んっ、んちゅっ、ちゅぶっ、ちゅるるるっ、んんウー！♡」

「ハッ♡ ハッ♡ んっぐウウ♡ ちゅっ、ちゅぶりゅっ、ぬちゅぶちゅっ、んっ、んウ♡ ちゅ、ちゅっちゅっ、んア♡ ちゅくんっ、ちゅむっ、ちゅるるちゅっ、ぬちゅっ、んんウ、ハッ、ハッ、ハッ、んんんウっ♡」

「アハあ♡ オマエのチンポも♡ ずっつと透明なチンポ汁、出っ放し♡ わうん♡ スポズボ♡ スポズボされて…んウ♡ 体がメスの喜び、感じてるんだな？♡ 気持ち良すぎて、オマエもせーし、出るっ♡」

「ガウもせーし、上がってきてる♡ んっグウ♡ もう、出す♡ 全部、ナカに出すから♡ オマエも出しちゃえ♡ あウ♡ あオオン！♡ 一回くらいじゃ、終わらない♡ オマエがいつても、続けてやるから、安心しろ♡」

「ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡ んっぐウ♡ あっ♡ アアッ♡ あウ♡ ニンゲンの穴に、いっぱい、出すぞっ！♡」

「ワウッ、ワオンウ♡ おっ、おおっ♡ おオオン！♡ おっ、おっ、おおウ♡ おオウンー！♡」

「わううっ！ あおー！ あおおおおおおおんんっ！…♡♡♡」

「ハアッ♡ ハアッ♡ ハアッ♡ ハッ、ハッ、ハッ、んっぐウ♡ ハアッ、ハアッ、ああっ…♡」

「いっぱい、中に、出てるの分かるか？♡ ハッ、ハッ、ハッ、ハッ…♡」

「オマエも♡ せーし、ビュクビュク出たな♡ ケツまんこ、ズボズボされて、せーしぢまけるの、当たり前になつた♡ ガウは嬉しいぞ♡ ちゅうっ♡ こんなに濃い、匂いさせて…♡ まだまだガウのこと誘ってる？♡」

「全然、硬いまま♡ ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡ まだ、出る？♡ せーし、残してない？♡ 出しやすくなるように、ガウが手でシコシコしてやるぞ♡」

「わうん！♡ せーし、出したばかりだから、敏感？♡ ヌルヌルだから、手でやりやすいぞ？♡

わウ♡ わウ♡ 気持ちいの、止まらない？♡ 今、シコシコされると、ダメ？♡ おかしくなる？♡

♡ ガウに、もっと感じてる？♡ 見える♡ いいぞ♡ 全部見てやる♡ ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡ ハアッ♡♡

「ああ♡ すごいすごい♡ 体、いつもよりビクビク震えてる♡ でも、せーし出て来ないな。シコシコしても、ダメか？♡ もっと、シコシコしたら、出る？…ダメか？♡ わうん…♡」

「ヌルヌル止まらないな♡ ガウの手、泡だらけになっている♡ ズチユズチユッて音してる。オマエがずっと発情してるの、分かるぞ♡ すんすん…ハア♡ 匂いもどんどん濃くなってきた♡」

「気持ちいの続いてるけど、せーし出ない…手じゃ、ダメってコト？♡ ああ、だったら、ガウのおっぱい使う。オマエ、交尾してるとき、ガウのおっぱい見てた♡ これで、チンポ挟む」

「わウ♡ オマエのチンポ、すごい熱いな♡ すんすん…ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡ せーしの匂いもすごいぞ♡ このまま、挟んで…んウ♡ スリスリ、シコシコ、したら、またせーし、出る？♡ はあ、はあ、んウ♡」

「あっ…うウ♡ オマエのせーしの泡で、ガウのおっぱい、ヌルヌルになつてる♡」

「ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡ オマエの美味しそうな匂い、すごい♡ ハッ♡ ハッ♡ ハアッ♡ ハアッ♡ ハアッ♡ ハアッ♡」

「くウン♡ ホント、熱い…♡ はあはあ、ニンゲンチンポで、火傷しそう…♡」

「あうん！♡ オマエずつと震えてるな♡ ずつとチンポイジられて、変になる？♡ アハア♡ それでイイ♡ ガウのせーし、たくさん浴びて祝福し続けてるから、オマエ、もうコレくらいじゃ壊れないぞ？♡」

「はあ、はあ、はあ♡ もつと気持ちいいこととして、ガウと同じになるだけ♡ いっぱい中出して、孕みヨメにしてやる♡ ガウとのゴドモ作る♡ わウ♡ わウ♡」

「あつ♡ すごいビクッてしたな♡ オマエの体も喜んでる？♡ ガウのゴドモ孕みたい？♡ イイぞ♡ たくさん孕ませて、孕ませて♡ 家族増やす♡」

「あつ♡ スゴイ♡ ニンゲンチンポ♡ おっぱいの中でパンパンになつてきてるの分かるぞ♡ ガウとのゴドモ作るの想像して発情した？♡ またせーし、出そう？♡ わウ♡ わオん♡」

「イイぞ♡ 出せ♡ 出せ♡ ガウにオマエのせーし、ぶっかけてみる♡ ううん！♡ ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡ 出したせーし、全部舐めてやる♡ オマエのせーしも、全部、ガウのモノ、だからな♡ んん♡ んんア♡ あつ、あウ♡ あオ♡ おつ、おオん！♡ おつ、おウ♡ うウ♡ ううウウ…♡ んん♡ んんウウウウツツ♡♡♡」

「ハアツ♡ ハアツ♡ はあつ…♡ んんウ♡ いっぱい、せーし、出たな♡」

「がうがう♡ 次はガウの番♡ 交尾、するぞ♡ オマエの体にガウのせーしでマーキング、してやる♡ ハアツ♡ ハアツ♡ ハアツ♡ オマエの匂い、スゴい♡ こんな発情するに決まってる♡ すぐに、入れさせろ♡」

「んぐぐウ♡ あつ、ああつ！♡ イイ♡ オマエのメス穴、ガウのこと受け入れてる♡ ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡ もう、ガウとの交尾、当たり前になつてるしな♡ スゴく嬉しいぞ♡ んんウ♡ このメス穴はガウだけのモノ♡」

「他の誰にも渡さない♡ あつ、アウ♡ んんんウ♡ 締め付けスゴお♡ オマエ、ケツまんこにチンポ入れられて喜んでるな♡」

「イイぞ♡ たくさん祝福して、立派な孕みヨメにしてやるからな♡ わう♡ わオん！♡ うつ、うウ♡ ううん！♡ ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡ うぐぐウ♡ ううつ、うア♡ あつ♡ あオ♡ おオん！♡」

「メス穴、気持ちいい♡ これっ、すぐにせーし出る♡ うウ♡ さっきまでオマエの発情してる顔見せられてたから♡ ガウ、もうガマンできないぞ♡ せーし♡ 出す♡ いっぱい出してやる♡ ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡ んんんウ♡」

「アハア♡ どうせなら、さっきのオマエみたいに、マーキングしてやる♡ うぐぐウ♡ オマエの体に、ガウのせーし、ぶっかける♡ あア♡ もう、出る♡ 出る♡ 出るウ♡ せーしっ、上がつてくるウ♡」

「んんんウ♡ おつ、おウ♡ おつ♡ おおおん！♡ おウ♡ うつくつ、んん！♡ んんんんおおおつ♡ うおおおおおオオんんんツツツ…♡♡♡」

